

知ってる？ 肝炎

肝臓に障害がおこる原因はさまざまで、肝臓病にもいろいろな種類があります。
 代表的な肝臓病には、ウイルスの感染でおこる「ウイルス性肝炎」、生活習慣が原因となる「脂肪肝」や「アルコール性肝障害」、薬の服用でおこる「薬物性肝障害」などがあります。日本人に圧倒的に多いのが「ウイルス性肝炎」で、全体の8割を占めています。
 ウイルス性肝炎にはA型、B型、C型、D型、E型などいくつかのタイプがあり、日本で感染率が高いのはA型、B型、C型の3つです。

“A型肝炎、とは？

A型肝炎は、A型肝炎ウイルスに汚染された食物や水を摂取することによって感染する急性肝炎です。
 小児が感染した場合、症状が現れずに終わることが多く、発症しても発熱、軽い黄疸をみる程度です。成人では90%が発症し、発熱・倦怠感・頭痛・筋肉痛・腹痛・下痢・黄疸・食欲不振などの症状がみられ、完全に治癒するまで1〜2ヶ月かかります。
 まれに劇症肝炎とよばれる急激な悪化や急性腎不全を引き起こすことがありますが、ほとんどが完治し、一度かかると免疫ができて再発することがなく、慢性化することはありません。
 A型肝炎ウイルスは世界中に分布していますが、特にアフリカ、アジア、中南米での流行が多く、このような流行地域への旅行の際にはA型肝炎ワクチンの予防接種が勧められます。

“B型肝炎、とは？

B型肝炎は血液や体液を介して感染します。母親がB型肝炎保有者の場合、母親の血液によって妊娠・出産の際に子どもにも感染が生じます。また、ピアスの穴開けやタトゥー（刺青）、血液に接する機会の多い医療従事者等では針刺し事故によって感染する場合もあります。さらに、最近では性感染症としても重要視されています。
 一過性の感染に終わるものと、感染が継続するもの（持続感染）に大別され、持続感染の多くは出生時や乳幼児期の感染が多くなっています。持続感染者の10〜15%は慢性肝炎を発症し、その後、肝硬変・肝細胞がんを発症することがあります。成人が感染すると約30%が急性肝炎を発症しますが、予後は一般に良好です。しかし、最近では成人期の感染でも慢性化しやすいタイプのB型肝炎ウイルスが拡がり、国内でも感染者が増えてきていることに注意が必要です。
 現在、妊婦健診でB型肝炎の検査が行われ、陽性と判定された場合には生まれた子供にワクチンを接種する対策を実施し、母子感染は減少しています。また、平成28年10月1日からB型肝炎ワクチンの予防接種が定期化されることになりました。

平成28年
 10月1日から
 平成28年4月1日以降に
 生まれた0歳児

B型肝炎ワクチンの 定期予防接種がはじまります！

- 対象は平成28年4月1日以降に生まれた0歳児です。対象となる方には個別にご案内をいたします。
- 1歳になる前に3回の接種を終える必要があります。1回目の接種を終えるまでにはおおよそ半年間かかります。
- ※平成28年4月・5月生まれの方は10月時点ですでに5〜6ヶ月が経過しているため、早めの接種をお願いします。
- 1歳になると定期接種の対象外となります（定期接種の対象外での実施の場合は任意接種となり、自己負担がかかりますが、助成の対象となりますので下記にご相談ください）。
- 接種のためには予約が必要です。接種予定日の前月の月から前週の金曜日17時（金曜日が祝日の場合はその前日）までに下記まで連絡ください。
- ※1日に接種できる人数に制限があるため、希望日時に接種できない場合もありますのでご了承ください。

【予約・問合せ】 役場保健福祉課 ☎ 2・1212

“C型肝炎、とは？

C型肝炎は、血液や体液を介して感染し、約70%が慢性化します。C型肝炎は、ほとんど症状がないため感染に気づきにくく、20〜30年で肝硬変、肝がんへと病気が進んでいきます。肝がんの約70%がC型肝炎の感染者です。
 以前は、輸血や血液製剤、集団予防接種の際に注射器の連続使用が行われたために感染が拡がりましたが、現在は検査や体制が整えられているため、これからの感染はなくなっています。他者の血液に直接ふれることがなければ、握手や入浴、食器の共用等、普段の生活のなかで感染のおそれはほとんどありませんが、近年は、ピアスの穴開けやタトゥー（刺青）、貸せい刺などの注射の回し打ちによる新規感染者がみられています。

★ここにも注意！

その他の肝疾患として、最近、脂肪肝が増加しています。平成27年度の佐呂間町における外来医療費（国保）の状況について、同じ人口規模の町村と比較すると、男性のアルコール性肝障害は1.8倍、脂肪肝は1.7倍も高くなっています。特定健診受診者の状況をみると肥満者の割合、飲酒の割合も高く、食事や飲酒、運動などの生活改善が大切です。

肝炎ウイルス検査をうけましょう

肝炎ウイルスに感染していても、検査を受けて感染を知り、医療機関で適切な治療をうけることで肝硬変や肝がんといった深刻な状態に進行することを防ぐことができます。
 40歳以上で今までに肝炎ウイルス検査を受けられたことのない方を対象に、B型及びC型の肝炎ウイルス検査（血液検査）を実施しています。
 検査は、町で実施する特定健診および胃・肺・大腸がん検診と併せて実施しています。検査を希望される方は下記までご連絡ください。

【申込み・問合せ】 役場保健福祉課 ☎ 2・1212